

BPW News Letter JAPAN

Official Newsletter of National Federation of Business and Professional Women's Clubs of JAPAN



2004.2.29

Olympic Year / 閏年

Vol. 75

特別号

次代の女性との接点
BPW に何が出来るか？

[CONTENTS]

- 第1回ヤングスピーチコンテスト
 - ・スピーチコンテストとは
 - ・審査結果
 - ・アンケート調査結果
 - ・スピーカーおよびスピーチ紹介
 - ・スピーチコンテスト審査総評
 - ・スピーチコンテスト、その後…
 - ・式次第・審査員紹介(8p)

UN-CSW インターン NY へ出発
・インターン2名、名古屋大会参加

ヤングの動き
二ノ宮ヤング BPW 委員長

事務局からの連絡
・BPWI アジア太平洋地域会議

編集後記

日本BPW 連合会ニュースレター

発行人：平松昌子 広報委員会編集

日本 BPW 連合会 事務局

〒160-0023

東京都新宿区西新宿 3-5-12-116

TEL.03-3348-7644

FAX.03-3348-7648

E-mail=info@bpw-japan.com

ホームページ URL

http://www.bpw-japan.com

夢あふれる女性たちにもらった感動

日本 BPW 連合会副会長兼広報委員長 黒崎伸子

2004年2月21日(土)17:10、名古屋国際ホテル2階で、日本 BPW 連合会が初めて開催するヤングスピーチコンテストが始まった。司会の土田アイ子企画委員長の傍らで、舞台の上に並んだ全国から集まった5人の若い女性たちの姿を見て、私は足元からズーンと震えが走っていくのを感じた。1年がかりで、やっとここまでこぎつけた訳だが、この震えはその苦労のためではない。この女性たちがどんなにすごい風をBPWの中に巻き起こすのだろうかという予感と期待のせいである。審査員以外に、多くの会員が会場に集まって下さった。

予想はずれなかった。大当たりである。そして、名古屋大会に参加できなかった全国の会員のために、NYでの国連女性の地位委員会へ出発する直前の平松会長から、早急にヤングBPW特集を、名古屋大会特集と別に、一日も早く発行して欲しいとのメールが入った。

では、会場にいらっしゃるおつもりで、このページを開いて下さい。

第1回 ヤングスピーチコンテスト

Congratulations!

Finalists of the 2003 Young Speech Contest

by BPW Japan



第39回日本BPW 連合会名古屋大会

2004年2月21日(土)17:10~

(会場：名古屋国際ホテル 2F 老松)

**<日本 BPW 連合会>
 ヤングスピーチ
 コンテスト**

2002年BPWIメルボルンコンGRESで開催されたBPWオーストラリア・ヤング委員会企画のスピーチコンテストは非常に印象的であった。幼いころから人前でのスピーチの訓練をしている他の国々の人は、自分の意見や考えを気軽に堂々と発表しているのに比べ、日本人は人前で話すことを大げさに考え、つい発言を抑制しがちである。あらゆる場面でも気軽に自分の意見をわかりやすくスピーチできるこれからの女性を育てることもBPWの社会貢献のひとつと考え、このコンテストが実現した。

「これからの女性が社会的地位を獲得していくには、いかに自分の考えをアピールできるかが鍵になる。」というその重要性を認識し、その場をつくるというのが目的である。

募集要項および審査方法

- 1) 募集対象：20～35歳以下の女性。就職活動中の学生または仕事をしている女性（職種は問わない）。
- 2) スピーチ時間：5分以内
- 3) 内容：key word に沿ったテーマ。自己PRや社会活動等について、日本語で発表。2003年度key word「私と仕事・職業」
- 4) 審査基準：100点の配分 発表内容 60点 表現力（話し方・表情等）30点 服装や態度 10点
- 5) 国内5ブロックで代表を選考し、最終選考を全国大会（総会）で開催。

審査結果

- 最優秀賞**（JAL 航空券 30,000 円）
 やなせ あきらさん
- 連合会会長賞**（商品券 20,000 円）
 和嶋 未希さん
- ヤングBPW賞**（図書 5,000 円+賞品*）
 富永 奈奈さん
 坂田 陽子さん
 江藤 さおりさん

*資生堂長崎支社長より化粧品セット提供
 ・5人全員にBPWバッジを進呈

スピーチコンテスト/アンケート結果

（審査員を含む来場者46名の回答）回答の一部のみを掲載

1. 本日のスピーチコンテスト全体の感想…………… 大変よかった37 (80%)
2. 貴クラブのコンテストは…………… ブロック全体で開催12 (26%)
3. コンテストの開催についてクラブ例会で…………… 話し合った25 (56%)
4. ブロック選考に…………… 参加しなかった23 (50%)
 不参加の理由は…………… ヤング会員がいないため13 (29%)
5. 今後のスピーチコンテストについてのご意見
 - ・今後もぜひ続けて下さい。継続の方向で。（同様の意見、多数あり）
 - ・私のクラブでもヤングに目をむけます。
 - ・当クラブの場合、相当な努力が必要ですが、努力の価値はあると思う。
 - ・若い力を大切にするため、又、育てるために大変いいことと感じます。
 - ・ぜひ続けて欲しい。ヤングの心意気が手に取るようにわかったから。
 - ・ヤング会員増強に強力な手段。BPWの将来に希望が持てる気がした。
 - ・BPWの宣伝に資する。若い人のスピーチを聞くことは有意義であった。
 - ・真剣に取り組むべき課題だと思う。 ・先の見通しが明るくなった。
 - ・今後とも定期的に行って頂きたい。大変良い企画だと思います。
 - ・若い人の素晴らしい生き方がよくわかるので、よいと思う。
 - ・コンテスト参加のヤングがBPWとつながる道をどう開くのでしょうか。
 - ・若い女性の意欲的な姿勢に刺激されます。
 - ・初めての試みを実行して下さい。新しい試みをジャンジャンして下さい。歴史の一步に参加できて良かったと思います。
 - ・若い方が厳しい社会の中で、目標をたてて挑戦し努力した内容を真剣に発表され素晴らしい計画でした。
 - ・自分の意見をしっかり持った若い方が多いのに驚きました。こういう方ばかりなら、社会もきっと変わるだろうと思いました。

スピーチコンテストを聞いて

発表者の一人一人が、自分の言葉で話していたのに好感を持った。自分の進む道を模索しながら歩み始めている様子がうかがえ、勇気をもらったような気がする。思わず、あの頃の自分を思い出してしまった。

あんなこともこんなこともしたいと思っても、誰に相談したらいいのか、そして適任者は、どこにいるのかわからず、途方に暮れた時もあった。年月を経て、その方法を知ったけれど、あの頃の瑞々しい発想や意気込みは、時の彼方に消えてしまった。

ヤングスピーチは、今の20～30代女性が、自分の将来に何を想い、どんな行動をするのかという「今」を聞くことができ、清々しく感じた。この新風を、知恵とネットワークを蓄えた先輩たちに、吹き込んでほしい。

発表を聞きながら、自分の考えを人に伝える訓練をする機会が少なかった自分の子供時代を思い出した。
 （工藤洋子/札幌：広報ブロック委員）

指摘された問題点

- * コンテストでなく主張にして、優劣をつけたい方がいい。
- * コンテストというタイトルが、よくない。コンテストでは、発表者の負担になるので、良くない。
- * 時間帯が悪い。（WSと懇親会の空き時間が短すぎる。）
- * 本部からの細かい指示がなかった。待っていたら、できなかった。
- * 本部から何の指示もなかった。指示を待っていました。

第1回スピーチコンテスト受賞者紹介

最優秀賞

やなせ あきら さん

〔近畿ブロック代表〕

和歌山市在住（1972年生まれ）。フルート演奏家。和歌山県立向陽高在学中に Mount Morris High school(米) 留学。Keene State College 音楽科で演奏・作曲を学ぶ。同大音楽講師・日本語講師・フルート講師等を務める。現在、Antioch New England Graduates School 臨床カウンセリング心理学部修士課程在学中。2005年5月終了予定。DV被害者サポート・カウンセリング、24時間電話ホットライン、幼児虐待によるPTSDの個人・グループカウンセリングに関わっている。(Women's Crisis Services/ NELCWIST Survivors' Project)



『自分らしく生きる』

多くの女性が社会に進出するようになって、私たち若い世代の女性にもいろんな可能性が広がってきました。選択肢が増えた反面、今までとは違うストレスも受けます。その中で女性は、何かを犠牲にし、誰かの犠牲になることも少なくないと思います。私は、高校3年でアメリカに留学し、10年以上アメリカで生活してきました。現在はアメリカの修士課程でカウンセリング心理学を勉強しています。

大学4年目に日本人駐在員と結婚しました。それまで私は、自分には無限の可能性と選択肢があると思っていました。ところが、結婚したとたん、人生で重要な部分であるキャリアと生き方に大きな制限を受けることになりました。

夫について渡米してくる駐在員の妻＝英語が話せない＝無能力者 「海外で仕事をするべからず！」という変な約束がありました。もちろん私はアメリカで夫と出会い、キャリア構築のために留学したのですから、夫の会社も私を例外として認めるだろうと思っていました。ところが、卒業してみると、「やっぱり仕事はさせられない。」と言われました。そこで私は、さすがに、修士や博士の資格をもつ人間に、「仕事をするな」とは言わないだろうと、自分のキャリア構築と結婚生活の両立を目指してがんばってきました。しかし、何をやっても無駄だということに気づくのに随分と長い時間がかかりました。

私にとって、自分の能力や価値を正當に評価されないことなど考えられませんでした。しかし、会社は「妻＝英語がしゃべれない・何もできない＝無能力者」ではなく、ただ、「妻・女＝無能力者」としか判断しないのです。いくらがんばっても、妻には変わりないし、女ですので、私＝無能力者と評価されたのです。

20～30代の女性は、ライフステージでいえば、キャリア構築、人間としての成熟、結婚・出産・子育てを成し遂げるとても忙しい時期です。社会に進出して戦ってきた先輩方は私たちに選択肢というすばらしいプレゼントを下さいました。そして、それは可能性への大きな一歩でもあります。しかし、現在、選択を迫られるのは、ほとんどの場合が女性です。

「俺、今度結婚するんだ。仕事辞めなくてもいいかなー？」とか「僕たち、赤ちゃんできたんだ。仕事辞めて子育てした方がいいよねー」なんて話す男性は滅多にいません。

残念ですが、いくら不公平だと言っても、社会をすぐには変えることは出来ません。そこで、今、私たちは、夫々がよりよい選択のために、自分をしっかりと見つめ、自分にとっての幸せとは何か？どんな人生を歩みたいのか？をしっかりと考えることだと思います。目標にあった人生を設計し、もし、社会の圧力や壁にぶつかったら、もう一度自分を見つめ、修正し、納得いく人生を歩む強さを身につけることだと思います。

私はその後、人生の中の一つの選択として、離婚という道を選びました。修正はいくらでもできます。私は、ライフ・キャリアカウンセラーとして、女性たちと一緒に素晴らしい人生を設計するお手伝いをこれからもしていきたいと思っています。

連合会会長賞

和嶋 未希 さん

〔北海道・東北ブロック代表〕

山形県在住（1972年生まれ）。1993年日大芸術学部放送学科卒業。卒業後、2002年まで地元企画制作会社勤務。ライター及び編集者として官公庁/自治体のPR誌・学校記念誌・イベント等の企画制作に携わる。2003年春の統一地方選・山形県議会議員選挙で、酒田市選挙区10,950票を得てトップ当選。女性県議ゼロ県であった山形県議会で唯一の女性議員となる。現在1期目。



『普通のOLから政治の世界へ』

この春、私は転職しました。通勤、高速で100分。46人中女性1人。31歳、最年少。仕事、政治。「議長！議席番号1番、山形県議会議員の和嶋未希です。」

山形県議会議員選挙で初当選を果たしてから、まもなく半年。… これまでの30年間、私は政治や選挙には全く関わることなく暮らしてきました。政治家の家に生まれ、議員を志した訳ではありません。大学を卒業して地元に戻り、地元の企業で会社員として働いていました。地盤（得票）も看板（知名度）もカバン（資金）も何もありませんでした。選挙に出るなんて考えてみたこともありませんでしたが、編集者という仕事柄、取材に出かけ、地域づくりの現場でがんばっている方々の声をお聞きするたびに、生活者の手元に届いていない政治に歯がゆさを感じていました。「今までは取材して原稿を書き、メッセージを伝えることが仕事だったけれど、もう一歩踏みこんでそのメッセージを政策として実現することができれば…」、そう考えたのです。

OLから政治の世界へ。周囲の人からは「よく決断したね」と言われました。けれど私は皆さんにこうお伝えしたいと思っています。仕事をしていて、暮らしていて、社会に矛盾や疑問を感じるならば、どうしても変えたいことややりたいことがあるならば、その選択肢の中に政治という選択肢があることを考えてみてください。政治の世界

は、決して特別な場所ではありません。

社会は駅のようなものだと思います。駅はいろんな人が利用します。様々な人たちによって構成される社会の計画を決める場には、多様な立場の人が参加することが必要です。…政治の世界への転職。大丈夫、私は元気に、けれど「普通」にやっています。そして、もしあなたが政治という選択肢を選ぶことを決心したときは、今度は私が全力で応援したいと思います。

ヤングBPW賞

3名

江藤 さおり さん

〔西日本ブロック代表〕
長崎市在住（1977年生まれ）。長崎純心大学大学院博士後期課程（人間文化研究科2年）研究者希望



『研究のきっかけ、人との出会い、私が描く将来像』

私は、長崎純心大学大学院で、福祉文化を専攻しています。この6年間の研究テーマは、「ハンセン病療養所」です。

小学生のころに強い興味を寄せて以来、念願叶って熊本のある療養所の門をくぐったのは20歳の時です。そのとき、私は一つの誓いを立てました。「もしも将来、ハンセン病問題を業績の一つに利用した場合は、きっぱりと止める」ということです。

しかし歳月を重ね、入所者との関係が濃密になると比例して、越えられない壁が次第に膨らみ、繰り返す一つの自問が、重く支配するようになりました。「なぜ、人間は苦しみ、生きなければならないのか？そして私は一体、何のために、誰のために、何を求めて研究をすべきなのか？」

その答えが解らず、2年後の療養所からの帰り道、私は導かれるように、療養所を取り囲むコンクリート塀に向かいました。そこには、初めて訪れた時と同じく、高くそびえる塀と、その脇に黄色い花が数輪咲いている風景がありました。しかし、ただ一つ違ったものがありますそれは「わたし自身」です。

入所者の方々と交流を重ねるうち、私はいつしか初心を忘れ、重大な過ちを犯しました。私はたった2年の内に彼らの苦しみを解ったかのように思い上がっていたのです。目の前の風景は以前と変わらない、でもその風景こそハンセン病の歴史の象徴だったことを、盲目になった私は見るができなかった……。

「壁は“社会の壁”、そして花はその壁の前に誇りを立って立つ“孤高な入所者”の姿の象徴だったのだ。」そう気付いたとき、安易な自己満足に陥っていた自分の愚かさに、涙が後から後から流れて止まりませんでした。そして初めて、「研究とは何か」を悟りました。

福祉の研究者とは、公の場で学問的に訴えることが出来ない、福祉を必要とする人々の代弁者であり、賛辞や名声を浴びる存在ではなく、当事者に光が当たることを喜びとする、影のコーディネーターではないか。

研究者は絶対的な意志を核とした上で、常に研究の過程において自分と対話し、人間性を高め、自分の限界や使命を問いつづけていかなければならない。つまり、研究者である前に、「人間として」大きな器であらねばならないのです。は生涯、そういう研究者であり

たい！「解らない」ことは決して恥ずかしいことではありません。むしろ「無関心」こそ恐れなければなりません。入所者の方がおっしゃいます。「無知は犯罪、沈黙は共犯」だと……。

私はこの言葉に応えるべく、今の自分の限界を真摯に受け止め、謙虚に「学び」ひたすら努力しています。そして、純粋に、学問が喜びと言える今がいとおしく、26歳のこのときに、「真理」を追い求める機会を得られた環境を、最高の喜びだと強く感じています。

最後に、療養所の方々をはじめ、教え導いて下さる多くの方々に出会えた幸運と、今日、この機会を与えてくださったBPWの皆様に、心から感謝致します。

坂田 陽子 さん

〔中部ブロック代表〕
1968年生まれ。
愛知淑徳大学コミュニケーション学部コミュニケーション心理学科講師



『私と仕事・職業』

「ご飯炊きだけをして終わる人生だけはやめなさい！」物心ついたころから、母にそう言われて育ちました。母は、活動的で、60すぎた今も予備校で英語講師をしています。そんな母親に育てられましたので、私自身も「女」ということをあまり意識したこともなく、やりたいことを見つけて自立するというのが当たり前だと思って来ました。幸い、好きな学問に出会い、それを生かした職業にも就けました。

私の職業は大学教員です。最近、大学教員の女性も増えてきましたが、それでも私の所属している学科の教員14名中、女性は私一人です。会議で女子学生に関する議題が出たりすると、男性の視点だけでは行き届かないところもあり、私が見えることもあります。

大学教員というのは、社会に出る一歩前の学生を相手にする仕事です。先日、4月から社会人になる4年生の女子学生に「仕事を60歳の定年までずっと続けたいか」という質問をしました。その結果、仕事をずっと続けたいという学生は約50%。残り50%は「結婚したら仕事は辞める」とか、「親の手前とりあえず就職するけど、本当は働きたくない」とか「好きなことがしたい」「のんびりしたい」「夫に養ってもらいたい」という意見が出ました。

この結果、女性が仕事を続けられない理由は、「結婚」や「出産・子育て」でどうしようもなく退職する、というだけでなく、働く前から「どうせやめる」という甘い考えがあるように思いました。こんな学生たちにどうやって「女性もしっかり自立した将来を考える」必要が理解してもらえませんか。

なぜ私は毎日楽しく働いているのだろうか、と自問しました。たどり着いた答えは、「働くということは、何かを成し遂げ、何かを残せる。そして、その成果が、家族や家庭だけではなく、会社や組織、ひいては社会全体にも影響する。責任があることだが、人生に張りや潤いをもたせ、生きがいにつながる。」ということでした。こうした「人生の豊かさ」のような事を学生に伝えたいと思います。少しでも志の高い学生を輩出することをめざし、同時に、私自身も働く女性の見本となるよう、切磋琢磨していきたいと思ひます。

富永 奈奈 さん

〔関東・山梨ブロック代表〕東京都杉並区在住(1982年愛媛県松山市生まれ) 明治大学法学部2年生。夢は国際公務員として国連等国際機関で働くこと。昨年夏「Work and travel(アメリカ版ワーキングホリデー)」で、文化・価値観の異なる各国の学生と働く経験。来春ケニアでボランティア活動予定。(大災害などの緊急時に備え、危機対策等に携わる)セーフティリーダーの資格有。剣道初段、趣味はピアノ・ダンス。



『私の職業観』

現在、明治大学法学部在学中で、来年度からの専攻は国際取引法です。この春休みは、アルバイトに明け暮れています。ホテル客室管理や旅行代理店で通訳ガイドアシスタントをしています。ともに国際的な職場で、忙しいけれども充実した毎日を送っています。

私がこのようにガムシャラにアルバイトをしている訳は、6月から約3ヶ月、ケニアのCIVSというNGOでボランティア活動するための資金作りです。このNGOは、ストリートチルドレン保護や、HIV感染の子供たちの施設を運営し、外国からの援助に頼ることなく、ケニア人自身が自立して行うというコンセプトで、活動しています。そこで私は施設ノ手伝いや、オフィスでの事務作業、地方での調査を行う予定です。

なぜ、ケニアでボランティアか。私は将来、国際公務員になりたいと考えています。世界中の困っている人々の役に立ち、あらゆる国々の人と共に感動を共有できる仕事をしたいのです。昨年、アメリカで2ヶ月働き、世界中の学生と一緒に働いた時の感動から、いろんな国の人々と働きたいと思うようになりました。

世界中で、悲惨な現状が繰り返されています。例えば、コンゴの難民女性たちへの性暴力、バングラディッシュのあるスラム街の人々は、砒素が混入している井戸水を飲むしか生きていく道はありません。アフリカでは毎日数万人がAIDSで亡くなります。同じ人間なのに、私はぬくぬくと生きていて、彼らはそんな重い現実の中で生きなくてはならないのか、この世の不平等に愕然とします。

この現状を何とかできないのか。どうしたらこんな私が役に立つことができるのか、どのような関わり方ができるのか。それを探しに、私はケニアに行きます。実際に現地へ行き、自分の目で見て、耳で聞いて、感じて、自分のフィルターを通して現実を見極めたいのです。きっと私なりの道が見えるはず。今、私の知っている世界情勢は、メディアという媒体を通じた情報です。現地に足を踏み込んで真実がわかるはず。国際公務員になりたいといっても、本や机の上の勉強だけでは、何も感じられないし、何も見えません。ケニアでの経験が、きっと私の人生の道標になると、期待しています。

しかし、果たして、私に厳しい現実を直視できる勇気があるのかどうか。そんな大きなものを背負って生きていけるのか。不安も多々私の心の中にありますが、現実を見極めることによって、その不安を消化していきたいと考えています。最近、World Vision Japanと

いうNGO東京事務所のボランティアをして、国際協力とは何か、国際平和にどう関わればいいのか、厳しい現実と対峙したときにどのように切り開いていけるのか、そのヒントを学ばせて頂いています。

そして、いつも意識していることは、いろんな世界の人々と積極的に触れ合うことです。国際貢献に関わる人だけでなく、全く違うビジネスやサービス業などの人々と接し、違う価値観に身をおくことも、成長のために必要と考えています。いつも広い視野を持ち、自分なりの物の見方を身に付けていきたいと思っています。

そして、私なりの平和へのアプローチができればと思っています。

表彰式

初めてのヤングスピーチコンテストはワークショップとセレモニーの間の40分間、懇親会会場をお借りして、連合会役員が実施した。過密な日程の中、審査員以外にも多くの会員がスピーチを聞きに来て下さった。懇親会の途中に、審査結果発表と表彰式を行った。



【審査委員長総評】

5人の若い女性によるヤングスピーチコンテスト。それは素晴らしい感動を与えてくれました。5分という短い時間で、自分の主張・気持ちをどう伝えるかを競うコンテストですが、内容は勿論のこと、話し方、説得力、服装、などを含めたトータルなアピールが問われます。23名の審査員をはじめ会場の出席者の見守る中で出場者の緊張がびりびりと伝わってきました。

思わず涙を覚えるほどの感動がありました。お一人お一人の真摯な態度、甲乙つけがたいほどの素晴らしさでした。それぞれが、自分自身を見つめ、働く女性としてどう生きようとするかを示唆してくれました。まさに、BPWが課題とする政治・職業・プロフェッション、ジェンダーなどさまざまな視点から問題が提起されました。

こうした彼女たちに、時代が確実に大きな変革を起こしつつあることを予感します。今こそ各クラブが積極的に若い会員を募り、活動の場を提供して欲しいと思います。先輩の会員と新たな若い会員が共に協力しながら、新しいBPW像を作っていけたらと願う次第です。

数年前から次代を担うヤング会員を育成しようと呼びかけてきましたが、今回のヤングスピーチコンテストはまさにその前哨であり、ニューヨーク国連会議に派遣された3名のインターンはその実現の一歩であるとの感慨を覚えます。前途ある若い未来にエールをおくりましょう。
(出村和子/連合会前会長)

ヤングスピーチコンテストの余波

大会終了後の連合会役員間のメールを一部紹介する。

2月23日 10:55 佐藤事務局長より拡大役員へ発信

今朝、メールをチェックしたら、ヤングスピーチに参加した富永さんから下記のような心強いメールが届いていましたのでご紹介します。

全国大会、お世話になりました。大変貴重な機会をいただき、感謝しております！CSW インターンの関谷さんとも仲良くなり、たくさんお話する機会にも恵まれ、たいへん光栄でした。彼女の話聞いて、私はまだまだだ！と切に感じました。今回スピーチして、まだまだ自分自身に課題が残っていることも大いに気づきましたが、次に繋ぐことのできる良い経験になりました。これからもどんどん失敗を恐れず、邁進していきたいと思います。

ところで、BPWの活動をもっと大学生レベルで広げていくべきではないかと思つきました。関谷さんなどとお話しながら、そんなことをふと思いつきました。第一線で活躍しているキャリアウーマンの方々の経験や哲学など、もっと大学生に伝えて、BPWの理念を次世代につなげていくべきだと、大いに感じます。

私が、何かアクションを起こしたいのですが、昨日、名古屋で、いろんな分野で活躍してらっしゃる方々とお話し、私自身大変勉強になりました。このような経験を欲している学生って、案外多いと思つきます。絶対、大学生レベルで普及させるべきです！普及させなきゃ、もったいないと思つきます！わたし普及させたいです！そんなことを思いつきました。どうでしょう。というものです。こんな心意気に応えてあげたい気がします。（佐藤道子）

2月23日 20:15 黒崎副会長発信

それにしても、富永さんのメールうれしいですね。彼女がケアに出かける前に、一度、役員と話して、具体案を考えましょう。二ノ宮さんを中心に、今度のUN-C SWインターンの方やスピーチコンテスト出場者を中心に、全国的なヤングBPWネットワークを展開できれば、いいですね。

ヤングの会費を20代に限り、安くすることを考えなくてはいいいかも知れませんが、ヤングは、皆、インターネットができるので、文書は全く送付しなくていいので、手間がかからないということで、5000円でいいかも……。ただし、この存在を、ヤングだけでやると、富永さんが感激したような先輩とのふれあいはできない訳で、地元の各クラブに入会してもらわないと会員増にもなりません。その会費を免除するか半額にするか？など、いろいろですね。

とりあえず、おばさんたちは、富永さんたち若手独自のネットワークづくりを見守って、実際に人が集まりそうだったら、その後、付随してくる問題を考え、来年の仙台大会で承認してもらえるようにしましょう。（黒崎伸子）

2月24日 10:23 平松会長発信

黒崎広報委員長どの

名古屋大会、それなりにヤングの力をという点では、得るものがあつたように思います。

富永さんからのメールなど、私は今回スピーチコンテストに参加してくださったみなさんからメッセージのやりとりをしたいなと感じました。

小泉総理じゃないけれど、「立派です！感動しました!!」BPWって、そのエネルギーが必要なのだという実感です。ヤングを……。って、行っているだけではダメで行動してみようかということでしょうか。それで、BPWニュース、可及的速やかにヤング特集バージョンを作成しませんか。シニアメンバーに、大会に参加しなかった、或いは出来なかった会員も含め黒崎さんのメールや二ノ宮さんのメール

をみながら、速やかに何らかの情報を伝える必要があると思つたのです。メールだけでは送信先が限られますので。大会報告バージョンも必要ですが、何とか特別バージョンを検討出来ないでしょうか。（平松昌子）

という訳で、このニュースレター発行決定！

スピーカーからのメール紹介（一部を抜粋）

富永奈奈さん

名古屋では、大変お世話になりました。さまざまな方面でご活躍されている方々とお話することができて、大変勉強になりました。私もこれからもっともっと頑張らなくては！と思つきました。

二ノ宮さんや、佐藤さんに伝えたのですが（もうすでにお聞きになってらっしゃるのかどうか・・・）BPWをもっと学生レベルで広めていくべきだと強く感じました。私のように、貴重な体験を欲している学生は、絶対多いと思つきます。私自身、関東大会そして名古屋大会に出場させていただき、確実に実りあるものを得ることができました。BPWが本格的に学生に広めるということになったときには、私がガンガン走り回って協力させていただきます！（2月24日発信）

「絶対、学生にひろめて行くべきですよ！報告会や、勉強会や、討論や、できることっていっぱいあると思つきます！大学生でしたら、わたし主要大学ほとんど人脈ありますし、やらせていただけるなら広報を担当して、各大学宣伝にまわりますよ！ねらい目は4月ですね。新入生へのサークル勧誘日に混じって、ピラとか配るのはかなり効果的です。昨年、明治大学にもアイセックができたのですが、春の勧誘で新入生の気持ちをがっちり掴んで、いまや大成功してます。4月に宣伝するのは、いろんな団体が成功してます。きっと春だと、学生さんたちはみんな何かやってみようと思つんじゃないかな、と思つきます。」（2月25日）

和嶋末希さん

いつもお世話になっております。

先日のBPW連合会の総会そしてスピーチコンテストに出場させていただいたことは私にとって大変に大きな経験となりました。平松会長をはじめ、全国の会員の皆さんにも温かい励ましの言葉をいただきました。先輩方、そして同世代の皆さんとの交流に触発され、明日からまた襟を正してがんばりたいとたくさんのパワーをいただき、元気に帰ってまいりました。今後ともご指導のほどよろしく申し上げます。

やなせあきらさん

先日はお世話になり、ありがとうございました。

とても有意義で実りの多い一日を過ごすことができました。スピーチはちゃんとした原稿がありませんでしたので、思い出しながら明日パソコンから送信します。取り急ぎ、ご連絡だけさせていただきます。

坂田陽子さん

ヤングスピーチコンテストではお世話になりました。あのような盛大な会でとても緊張してしまい、また、有職者の若い方がスピーチをする、と聞いておりまし

たので、行ってみると私のゼミ生よりも若い人たちに混じってのスピーチで、大変恐縮してしまいました。はじめから分かっていたら、学生を紹介できたのに・・・と思っております。今後益々のBPWのご発展をお祈りいたします。

江藤さおりさん

先日のスピーチコンテストでは大変お世話になりました。コンテストのおかげで、懇親会にて声をかけていただいた方々との交流も得ることができ、とても感謝しております。日本にこれほど沢山輝いておられる女性の

先輩がいらっしゃったということがとても嬉しい一日でした。BPWの皆様が心にかけてくださったこと、これからの研究生活に生かしていきたいと思っております。BPW会員の皆様の益々のご活躍をお祈りいたします。

「BPW もまだ捨てたものではない？」

現在、二ノ宮寛子ヤング委員長が冨永さんの提案を受けて、今年度のヤング対象企画などを検討中です。全国の会員のみなさま、ご協力よろしくお祈りいたします。

国連女性の地位委員会 (UN-CSW) インターン ニューヨークへ出発

ニュースレター Vol.73 (p.2) や 2003 年会報 No.35 (p.52-53) に紹介した 3 名の国連インターンのみなさんは、無事に 2 月末にニューヨークに出発されました。連合会としては、インターン決定後、同行予定の役員などを加えて、メーリングリストを立ち上げて、彼女たちのサポートを行ったり、BPWI からの情報提供や 1 月になってからは、各種手続きなど様々な連絡を行って来ました。そのなかで、BPW のサポートで UN-CSW に参加するのだから、BPW が実際に何をしているのか知りたいと、名古屋大会 1 日目に、中澤ちひろさんを除く 2 名のインターンがご出席下さいました。

NY に同行する平松会長や布柴国際委員長とのブリーフィングを昼食時に行いました。その後、関谷さんは 12 月末に参加した模擬国連の体験などを踏まえて、ワークショップ 2 「A World of Peace ~ 平和な社会に向けて女性の果たす役割 ~」で特別発言をして頂きました。また、沓名さんはワークショップ 3 「ヤング BPW ~ ヤングがこれからの BPW に求めるもの ~」に参加して、発言して頂きました。出発前にお二人から届いた名古屋大会についての感想の一部を紹介します。

BPW のみなさま

昨日は、あれほど盛大な会に参加させていただき、大変光栄に思います。どうもありがとうございました。

このたび初めてみなさんとお会いしたわけですが、先輩方のバイタリティの強さには本当に驚かされました。男性と違い、女性は一人でも強く生きていける性だと以前から感じていましたが、あれほどの人数が集結すれば、不可能なことも可能になってしまうのだという印象を受けました。

また、ブリーフィングでは、NY へご一緒する平松会長、布柴様をはじめとし、黒崎様、二ノ宮様、的確なアドバイスをくださり、ありがとうございました。おかげさまで、あちらでの滞在の内容がおおよそ把握できましたので、これからパッキングにかかります。

黒崎様、新書およびたくさんの医薬品をくださり、たいへん感謝いたします。実は、ちょうど機内で読めるくらいの、ジェンダーに関する新書を探していたところでしたし、あのような本を全て自分で揃えることは難しいので、本当に助かります。本当に有意義な時間を過ごさせていただきました。

それでは、みなさま、季節の変わり目ですので、体調には十分お気をつけください。私も出発前は残り少ない仕事と CSW への予習の両立に勤しみ、体調を整えたいと思っております。

沓名典子

皆様、こんにちは。

昨日は、名古屋大会で皆様にお会いできたこと、また、あのような中身の濃い会に参加できたことを大変嬉しく思っております。全国から集まった多くの魅力的な女性達のパワーに圧倒され、私も皆様のような力強い女性になりたいと思いました。

沓名様、昨日お会いしたことで、N.Y. で一緒に過ごせることがいっそう楽しみになりました。黒崎様、お薬を沓名様から見せていただきました。たくさんご用意くださりありがとうございます。いただいた本も機内で読もうとおもいます。

今回、ニューヨークに行かない方々も、様々なご支援をしてくださり深く感謝いたしております。

多くのことを学べるよう、全力で頑張っております。

関谷玲香

ご報告および御礼

名古屋大会懇親会で、このお二人を紹介し、全くの自費で 2 週間の会議に参加されるインターンの皆さんへのご支援をお願いしたところ、心温まるたくさんのご寄付を頂きました。この中から、それぞれへのご餞別、NGO イベント参加への支援などをお渡しし、一部は帰国後のために、事務局で保管させて頂いております。

ご協力、本当にありがとうございました。

ヤングスピーチコンテスト式次第

進行：土田企画委員長

1. 開始宣言 土田企画委員長
2. あいさつ 平松昌子連合会会長
3. スピーチ（北から南の順に）
制限時間 5分
・30秒前 イエローカード
・5分 ブルーカード
・30秒オーバー 両カード
4. 審査採点用紙収集
5. 終了の挨拶 黒崎伸子実行委員長
懇親会で審査結果発表及び表彰

【審査員一覧】

審査委員長：出村和子前会長
 長田 洋子（連合会副会長）
 石田 好江（基調講演講師）
 永井 信（札幌）
 大田 敏子（旭川）
 関寺美起恵（苫小牧）
 大村 育子（青森）
 金井 恭子（仙台）
 棚田美津子（山形）
 井上 敦子（東京）
 早坂 洋子（武蔵野）
 豊田キヨ子（関東）
 深沢 公子（山梨）
 加藤たゑ子（愛知）
 安田多賀子（岐阜）
 志野久美子（京都）
 久保 洋子（堺）
 池田 説子（神戸）
 宮崎 恭子（和歌山）
 加藤 英子（香川）
 戸丸 敦子（福岡）
 黒木賀代子（北九州）
 山本 美子（長崎）
 計 23名
 大会欠席届（秋田・関西）
 審査辞退クラブ（名古屋）
 遅刻のため審査員失格（大阪）

編集後記

6ページに紹介したような経緯で、このNLは号外の形で発行です。今頃、平松会長たちは、NY国連女性の地位委員会でも、また若い女性たちのパワーに圧倒されていることでしょう。次の名古屋大会特集号を発行したら、今度はインターン報告と、広報は忙しい1年になりそうです。緊急の依頼に対応して下さったスピーカーの方々や加藤池華さんはじめ名古屋クラブのみなさん、ご協力ありがとうございました。（黒崎）

ヤングの動き

二ノ宮寛子・ヤング BPW 委員長

私たち、ヤング BPW にとって今回の名古屋大会・総会は非常に実り多きものとなりました。ヤングのためのワークショップを含む 2 日間の日程の中で様々な年代の会員の方々とお話しするうちに 5 つの具体的なアイデアが出ました。

「ヤング」会員の母体を大きくする。

所属クラブへの例会出席以外の形でも情報やネットワーキングの点で BPW に関わっていただけるようにする。

YBPW 用の紹介カードを作成する。

「ヤング会議（仮称）」を開く。

BPW イエローページを作成する。

のためには本連合会での「ヤング」の年齢定義（BPWI は 35 歳まで）を引き上げて既存の会員内で数を増やすか、またはメンター制度を作ってヤングを卒業した会員の方達にサポートしていただくことが考えられます。については、WS のために集めたヤング会員へのアンケートの結果で「仕事があって例会に出られない」「出られないので継続できない」という意見が多く、働く女性のための会なのに仕事のために退会する人がいることがわかったので、メールやチャットなど他の形でも BPW に携わっていただける環境を整備したいと思います。については、BPWI でヤング用の名刺サイズの紹介カードを作っており、その日本語版を作成することでポテンシャルな女性に BPW を手軽に紹介することができます。については、国内に散らばるヤング会員の横の繋がりを作りつつ、外部のヤング世代の女性に関心を持ってもらうため、ワークショップ、報告会または講演会の形で集まりたいと思っています。については、BPW ヨーロッパでちょうど出来上がったばかりなのですが、仕事（相談や講演依頼など）だけでなくプライベートな面でも異年齢の女性にサポートを受けることができる BPW のメリットを最大限に活かして、容易に適切な人材にアクセスできる制度を構築することができればヤングにとっては非常にプラスになると思います。個人情報でありデリケートな問題ですが、公開可能な部分だけの記載でも十分貴重なイエローページにできると思います。

上記五つのアイデアですが、まずは と を中心に活動を企画中です。名古屋大会後、その若い参加者から、これからの企画に積極的に参加したいという嬉しいメッセージも届いています。（6p 部分）大会後、名古屋では大風が吹き荒れました。ヤングへの追い風であったと信じて活動してまいりますので、今後ともご協力よろしくお願いたします。

お知らせ**BPWI アジア太平洋地域会議**

会期：2004年4月3日（土）～6日（火）

会場：ネパール/カトマンズ市内ホテル

プログラム：3日 講演「21世紀女性たちの強力なネットワーク」

アントワネット・ルーク BPWI 会長

招待講演「貧困 平和と発展への脅威」

地域コーディネーター Dianne Glenn 報告など

4日 BPW 会長対象セミナー「BPW のインパ・ワメント」

5日 各国報告など

既に、各クラブ会長には通知しましたが、興味のある方・詳細を知りたい方は、担当役員/東アジア・77 地域コーディネーター黒崎
 (nkurosaki@nmc.hosp.go.jp または Nobuk9016@aol.com) までご連絡下さい。